



町村自治

7月 2015 平成 27年

● 発行所 青森県町村会 ● 編集発行人 小笠原 靖介 ● 印刷所 長尾印刷(株)
〒030-0801 青森市新町二丁目4番1号(年4回発行) TEL 017-723-1331 FAX 017-723-1347
ホームページ <http://www.aomori-chousonkai.jp/> E-mail ack@aomori-chousonkai.jp



飲むヨーグルトファン、郷のきみファン、魚釣りファン 「新郷村ファン感謝デー」に来たれ!!

毎年9月中旬に開催される「新郷村ファン感謝デー」は、役場前の金ヶ沢農村公園が会場です。この日は飲むヨーグルトが特価で販売されます。また、甘さ抜群の郷のきみも採りたてが味わえます。魚釣り大会も開催され、川のほとりは釣り糸を垂れる人たちでいっぱい!ぜひご来場ください。

【No. 1207】

〔新郷村ファン感謝デー かねがさわ 新郷村〕

■ 本会臨時総会……………2	■ 平成28年度重点施策提案に係る 国会議員説明会等……………4
■ 役員合同会議ほか……………6	■ まちづくりへの挑戦 大間町……………10
■ いまが旬!……………12	■ 随想 須藤新郷村長……………16



青森県町村会臨時総会

会長に吉田豊六戸町長を選出

副会長は金澤大間町長、森内外ヶ浜町長



就任あいさつをする吉田新会長と森内、金澤両副会長

本会は六月十八日、青森市の県共同ビルで臨時総会を開催し、任期満了に伴う役員の変更を行った。会長に吉田豊六戸町長を選出したのははじめ、新たに副会長二名、監事三名を選出し、本会の新たな執行体制が決定した。理事には郡町村会長を充てることとなる。



新たな執行体制を決定した臨時総会

臨時総会には、吉田会長職務代理者はじめ二十六町村長（代理含む）が出席した。吉田会長職務代理者が議長を務め議事に入り、任期満了に伴う役員の選任を行い、会長に吉田豊六戸町長、副会長に森内勇外ヶ浜町長、金澤満春大間町長、監事に吉田満深浦町長、平田博幸藤崎町長、三浦正名五戸町長を選出し、新役員が決定した。任期は平成二十七年六月十九日から二年間となる。

「創意と工夫を凝らして様々な行政課題に取り組み、活力と魅力のある地域づくりに向けて懸命に努力している。多様で個性豊かな自治を実現していくために、今後とも国に対して強力に働きかける必要がある。このことは本会の活動の大きな柱であるので今後とも一層のご協力を願いたい。」と抱負を述べた。

**総務厚生委員長に
三浦五戸町長
産業経済委員長に
鈴木田舎館村長**

本会は臨時総会終了後、青森市のラ・プラス青い森で、総務厚生、産業経済両委員会を開催し、任期満了に伴う委員長、副委員長の選任を行った。

総務厚生委員会では、委員長に三浦正名五戸町長を再任したほか副委員長に関和典西目屋村長、小又勉七戸町長をそれぞれ選出した。また、産業経済委員会では、委員長に鈴木孝雄田舎館村長を再任したほか副委員長に小野俊逸中

臨時総会で選任された役員顔ぶれ

会長

吉田 豊
(六戸町長)



副会長

金澤 満春
(大間町長)



監事

三浦 正名
(五戸町長)



吉田 満
(深浦町長)



森内 勇
(外ヶ浜町長)



平田 博幸
(藤崎町長)



理事

阿部 義治 (今別町長)
相川 正光 (鶴田町長)
関 和典 (西目屋村長)

斗賀 壽一 (東北町長)
飯田 浩一 (風間浦村長)
山本 晴美 (田子町長)

青森県町村会政務調査委員会 (平成27年6月18日現在)

総務厚生委員会 (14名)

委員長	三浦 正名	(五戸町長)
副委員長	関 和典	(西目屋村長)
〃	小又 勉	(七戸町長)
委員	阿部 義治	(今別町長)
〃	森内 勇	(外ヶ浜町長)
〃	東條 昭彦	(鱒ヶ沢町長)
〃	平田 博幸	(藤崎町長)
〃	相川 正光	(鶴田町長)
〃	中谷 純逸	(野辺地町長)
〃	斗賀 壽一	(東北町長)
〃	越善 靖夫	(東通村長)
〃	樋口 秀視	(佐井村長)
〃	浜谷 豊美	(階上町長)
〃	須藤 良美	(新郷村長)

産業経済委員会 (16名)

委員長	鈴木 孝雄	(田舎館村長)
副委員長	小野 俊逸	(中泊町長)
〃	三村 正太郎	(おいらせ町長)
委員	船橋 茂久	(平内町長)
〃	久慈 修一	(蓬田村長)
〃	吉田 満	(深浦町長)
〃	山田 年伸	(大鰐町長)
〃	成田 誠	(板柳町長)
〃	吉田 豊	(六戸町長)
〃	野坂 充	(横浜町長)
〃	戸田 衛	(六ヶ所村長)
〃	金澤 満春	(大間町長)
〃	飯田 浩一	(風間浦村長)
〃	竹原 義人	(三戸町長)
〃	山本 晴美	(田子町長)
〃	工藤 祐直	(南部町長)

泊町長、三村正太郎おいらせ町長を選出した。両委員会の構成は名簿のとおり。

また、総務厚生委員会では、県総務部市町村課の安藤課長から町村における行財政的課題等、県健康福祉部の一戸部長から部主要施策等について、また産業経済委員会では、県農林水産部の成田部長、県観光国際戦略局の高坂局長から、それぞれ部局主要施策等について説明があり、意見交換を行った。

管理者に

吉田六戸町長を選任

県市町村総合事務組合

本会に事務局を置く県市町村総合事務組合は、本会臨時総会終了後、議会臨時会を開催し、吉田管理者職務代理者はじめ議員等六町村長が出席した。

臨時会では、任期満了に伴う正・副管理者選挙を行い、管理者に吉田六戸町長、副管理者に森内外ヶ浜町長を新たに選任したほか、監査委員に金澤大間町長を選任した。

地方財政基盤の充実・強化等を訴える

平成28年度重点施策提案に係る国会議員説明会

県・市長会・町村会三者合同で



吉田会長職務代理者が町村財政基盤の充実・強化等を訴える

本会は、県、市長会の三者合同により、六月十四日、青森市のホテル青森で平成二十八年度重点施策提案に係る国会議員説明会を開催した。
本会からは吉田会長職務代理者、鈴木副会長をはじめ役員町村長が出席し、県選出国會議員に対し、地方創生の推進や地方財政基盤の充実・強化など、七項目の重点施策を説明し、実現へ協力を求めた。



説明会には約140人が出席

説明会には、県選出国會議員の津島淳衆議院議員、江渡聡徳衆議院議員、大島理森衆議院議長、木村太郎衆議院議員、高橋千鶴子衆議院議員、升田世喜男衆議院議員、山崎力参議院議員、滝沢求参議院議員が出席した。

また、本会からは吉田会長職務代理者、鈴木両副会長をはじめ役員町村長十一人、県からは、三村知事ほか副知事と関係部局長、県市長会からは鹿内会長ほか各市長（代理含む）など、約百四十人が出席した。
説明会では、三村知事が主催者を代表しあいさつした後、県、市長会、本会からそれぞれ重点施策が説明され、その後、意見交換を行った。

本会からは、はじめに吉田会長職務代理者があいさつの中で、「町村は急速な少子高齢化の進行や人口減少等、極めて厳しい状況となっている。人口減少の克服と地域活性化に向けて地方創生を推進していくので、町村が取り組む施策についてご支援願う。また、財政基盤の充実・強化、地域医療の確保・充実及び子育て支援、農林水産業の振興、社旗基盤の整備促進、観光客誘客対策、環境保全対策等も重要課題。本県住民が安心して暮らしていけるよう配慮願う。」などと述べ、引き続き、本会小笠原常務理事から、地方創生の推進や地方財政基盤の充実・強



説明会には県選出国会議員 8人が出席



三村知事が主催者を代表してあいさつ

本会重点施策提案の説明事項

1. 地方創生の推進について（3団体共通要望項目）
2. 地方財政基盤の充実・強化について（3団体共通要望項目）
3. 医療・保健・福祉施策の強力な推進について
 - （1）地域医療の確保・充実及び総合的な子育て支援について
 - （2）国民健康保険制度の安定運営について
4. 農林水産業の振興について
 - （1）TPP交渉について
 - （2）農業の振興について
 - （3）林業の振興について
 - （4）水産業の振興について
5. 社会基盤の整備について
6. 観光客誘客対策の推進について
7. 環境保全対策の推進について



石破内閣府特命大臣へ要望

関係省庁等に 重点施策提案活動

本会は、県、市長会の三者合同により六月十六日、東京都内で、自由民主党をはじめ内閣府、総務省、厚生労働省、農林水産省、国土交通省、環

境省に対し、平成二十八年年度の重点施策提案を行った。本会からは吉田会長職務代理者が出席し、棚橋自由民主党幹事長代理及び石破内閣府特命担当大臣（地方創生担当）並びに関係省幹部に面談のうえ、本県の実情を強く訴え施策の実現を求めた。

化など、七項目の重点施策を説明した。（本会重点施策の説明項目は上記のとおり）また、県からは、「創造的復興」を実現するための税・

財政支援など十九項目、市長会からは、子ども医療費無料化制度の創設についてなど十二項目の重点施策が説明された。

国への重点施策提案事項等を決定

役員合同会議

本会は六月二日、青森市の

県共同ビルで正副会長・理事・監事・顧問合同会議を開催した。出席者は吉田会長職務代理者をはじめ役員町村長十一人。

会議では県、市長会と三者合同により実施する平成二十八年重点施策の本会からの提案事項等を協議し、協議の結果それぞれ原案どおり承認、決定した。

協議事項は次のとおり。

協議事項

- 協議事項1 平成二十七年青森県町村会臨時総会開催期日及び総会次第案について
- 協議事項2 本会役員の内任について＝概要は本紙二、三頁参照。
- 協議事項3 平成二十八年重点施策提案に係る国会議員説明会等について＝本会からの提案項目を次のとおり決定した。説明会の概要は、本紙四、五頁参照。
- 東日本大震災からの復興と防災・減災・老朽化対策に

関する提案

復興庁関係関係

- 1 防災・減災・老朽化対策の強化について
- 2 原子力施設等の安全対策及びエネルギー政策について

◎平成二十八年度政府予算編成及び施策に関する提案

内閣官房関係

地方創生の推進について

内閣府関係

道州制導入反対について

総務省関係

- 1 町村自治の確立及び地方財政基盤の充実・強化について
- 2 自治体病院に対する財政措置の充実・強化について
- 3 情報化施策の推進について

文部科学省関係

学校施設等の防災機能の強化について

厚生労働省関係

- 1 地域医療の確保・充実に
- 2 ついて
- 2 総合的な子育て支援対策

の推進について

- 3 介護保険制度の円滑な運営について
- 4 国民健康保険制度の安定運営について

- 5 雇用施策の充実・強化について

農林水産省関係

- 1 農業の振興について
- 2 林業の振興について

経済産業省、資源エネルギー庁、原子力規制委員会関係

- 1 原子力施設等の安全対策及びエネルギー政策について
- 2 電源地域振興のための交付金制度の充実・強化について
- 3 高レベル放射性廃棄物の最終処分に係る諸施策の推進について

国土交通省、観光庁関係

- 1 防災・減災・老朽化対策の強化について
- 2 道路の整備等について
- 3 治水・水資源対策について
- 4 座礁船・沈没船対策について
- 5 観光客誘客対策について

環境省関係

- 環境保全対策の推進について

本会事業に対して、協力要請「市町村総合戦略」策定に向け講演

町村総務課長会議

本会は五月十五日、青森市のラ・プラス青い森で町村総務課長会議を開催した。出席者は町村総務担当課長等三十人。

会議では、本会総務課が町村健康管理研修、甲慰金等の支給、顧問弁護士など総務関係十項目、総合賠償補償保険事業など共済関係七項目、業務課が国・県及び市町村長会議に対する要望・提言、各種研修、町村職員採用統一試験、法令外負担金の規制など十三項目、市町村税滞納整理機構が徴収実績などについて

説明し、各業務に対する理解と協力を求めた。また、引き続き、NPO法人ローカル・グランドデザイン理事の坂本誠氏が「市町村総合戦略」策定に向けてのヒント（「人口減少問題」と「地方創生」）を考えるための視点」と題し講演した。



坂本氏が「市町村総合戦略」策定について講演

講演の中で坂本氏は「人口が減少したからといって自治体が消滅することは、ありえない。消滅可能性都市リストに踊らされ、あきらめ感が生じることが怖い。地域を最もよく知っているのは住民自身である。数字に踊らされず、地域の将来を自分の目で見つめ考えて行くことが大切。また、総合戦略策定に向けての考え方としては、既存の住民であれ、移住者であれ、住民が幸せに、豊かになる政策を打つことが原則。誇りと愛着を感じる地域からは人は簡単に出ていかないし、戻ってくる。」などと講演した。

平成27年度事業計画・予算等を決定

各団体理事会・総会

本会に事務局を置く三つの各団体は、六月十八日、青森市の県共同ビルで平成二十七年年度理事会、総会を開催した。

各団体は、平成二十六年年度事業報告・収支決算、平成二十七年年度事業計画・収支予算案等を審議し、それぞれ原案どおり承認、決定した。

また、発電関係市町村全国協議会青森県支部は、任期満了に伴う役員を選任を行った。



青森県広報聴協議会理事会の様子

各団体の理事会、総会の概要は次のとおり。

青森県広報聴協議会

理事会には吉田会長職務代理者（六戸町長）をはじめ、理事十一人（代理含む）が出席し、収支予算案等を承認、決定した。

全国山村過疎地域振興連盟青森県支部

理事会には、野坂支部長（横浜町長）をはじめ理事八人が出席し、収支予算案等を承認、決定した。

発電関係市町村全国協議会青森県支部

総会には、関支部長（西目屋村長）をはじめ会員市町村から五人が出席し、収支予算案等を承認、決定した。

また、任期満了に伴う正・副支部長の選任を行い、支部長に関西目屋村長、副支部長に竹原三戸町長をそれぞれ再任した。

本会に事務局を置く各団体役員名簿（平成27年7月1日現在）

青森県広報聴協議会
（会員数〓県・40市町村）



吉田 会長

会長

吉田 豊（六戸町長）

副会長

鹿内 博（青森市長）
小山内 彦（県企画政策部長）

理事

葛西 憲之（弘前市長）
小林 眞（八戸市長）
高樋 憲（黒石市長）
平山 誠敏（五所川原市長）
小山田 久（十和田市長）
宮下 宗一郎（むつ市長）
福島 弘芳（つがる市長）
長尾 忠行（平川市長）
阿部 義治（今別町長）
相川 正光（鶴田町長）
関 和典（西目屋村長）
斗賀 壽一（東北町長）
飯田 浩一（風間浦村長）
山本 晴美（田子町長）

全国山村過疎地域振興連盟青森県支部
（会員数〓28市町村）



野坂 支部長

支部長

野坂 充（横浜町長）（山・過）
（山村振興部会長兼任）

副支部長

森内 勇（外ヶ浜町長）（山）
東條 昭彦（鯉ヶ沢町長）（過）

理事

平山 誠敏（五所川原市長）（過）
長尾 忠行（平川市長）（山）
船橋 茂久（平内町長）（過）
関 和典（西目屋村長）（山）
山田 年伸（大鰐町長）（過）
小野 俊逸（中泊町長）（山）
飯田 浩一（風間浦村長）（山）
樋口 秀視（佐井村長）（過）
山本 晴美（田子町長）（過）
須藤 良美（新郷村長）（山）

※（山）は山村担当理事
※（過）は過疎担当理事

発電関係市町村全国協議会青森県支部
（会員数〓8市町村）



関 支部長

支部長

関 和典（西目屋村長）

副支部長

竹原 義人（三戸町長）

会員

青森市
黒石市
十和田市
平川市
鱒ヶ沢町
深浦町
種市 一正（三沢市長）
平田 博幸（藤崎町長）
三浦 正名（五戸町長）

青森県町村会内部団体協議会 共通監事

魅力ある広報紙づくりを目指して

広報広聴担当者研修会

本会に事務局を置く県広報広聴協議会は、本会、市長会、市町村振興協会との共催により、七月三日、青森市のラ・プラス青い森で県市町村広報広聴担当者研修会を開催した。出席者は市町村の広報広聴担当者三十三人。

研修会に先立ち、はじめに平成二十七年県広報コンク

ル表彰式を行い、広報紙総合部特選の弘前市をはじめ、広報紙、写真、映像各部門で優秀な成績を修めた各団体に對し、表彰状を授与した。

引き続き、連絡事項として、県広報広聴課より今年度の年間重点広報計画の概要等のほか、事務局が本協議会の概要等について説明した。

効果的な面接技法とは

面接試験技法研修会

本会は、県市長会、県市町村振興協会との共催により、六月三十日、青森市のアップルパレス青森で、面接試験技法研修会を開催した。出席者は副町長、町教育長、市町村の人事担当管理職員等二十四人。

研修会は、小笠原常務理事のあいさつに続き、公益財団法人日本人事試験研究センターの遠藤宣男氏が面接試験の基礎知識や質問・評価の技法等について説明した。

遠藤氏は「筆記試験と同様、



模擬面接実習により面接技法の理解を深める参加者

面接試験も公正性、統一性、客観性などの試験としての要件を満たすことが必要。そのため、構造化の導入により標準化の水準を高めたうえで、

研修では、グラフィックデザイナー

長岡光弘氏が「魅力ある広報紙のための視覚表現」と題し、講



グラフィックデザイナーの長岡氏が講演

演した。

長岡講師は、全国広報コンクール審査委員としての経験等を踏まえ、訴求力を高めるための紙面編集として「広報紙の編集は時代とともに変化しているため、時代を読んだ編集が必要。住民視点の情報選択と編集を考えることで、訴求力が増す。訴求力を高めるためには、わかりやすい紙面表現であるか、視覚的な変化があるか等をチェックする

ことが必要。また、視線の流れに配慮した紙面表現をする可読性が上がる。サムネイル（縮小した記事の下絵）を書くことで、イメージの定着を行うことができると説明した。また、平成二十七年全国広報コンクール優秀作品の特集記事を題材に、余白、フォント、色彩の使い方や、記事のページ割り、写真の構成などについて具体的な説明があった。

で、関連資料を整備活用しながら焦点を絞り、展開して掘り下げていく質問の技法と、公正、的確で偏りない評価の技法が求められる」と述べた。

研修会では、模擬面接試験のDVDを鑑賞し、三人の面接試験官の悪い例と良い例の言葉遣いや態度などについて、各グループに分かれて討議し、

意見交換・発表したほか、グループ別のロールプレイ方式による模擬面接実習を行い、問題点等を討議した。

市町村職員自主研究の今後のあり方を説明

研修担当課長会議

本会は五月十五日、青森市のラ・プラス青い森で研修担当課長会議を開催した。出席者は町村研修担当課長等約三十人。

会議では、市町村職員自主研究会の設立の背景、活動状況、成果、課題等について事務局からの報告があった。研究会の今後のあり方としては、本会「町村自治振興調査研究事業」等により、課題解決に

向け意見交換会や研修会等を開催し、町村振興につなげていくこととし、本会が支援する現行の自主研究会は今年度をもって廃止する旨を説明した。

また、来年度は自主研究会設立以来のアドバイザーを講師として講演会等を開催し、これまで浸透した職員の意識改革を次につなげて醸成していくことを確認した。



五戸町長

三浦 みうら

正名 まさな 氏

任期満了に伴う五戸町長選挙は、六月七日、投票が行われ、現職の三浦正名氏(61)が、五選を果たしました。
〔略歴〕 会社社長



風間浦村長

飯田 いいた

浩一 こういち 氏

任期満了に伴う風間浦村長選挙は、四月二十六日、投票が行われ、現職の飯田浩一氏(54)が、再選を果たしました。
〔略歴〕 村議会議員



板柳町長

成田 なりた

誠 まこと 氏

任期満了に伴う板柳町長選挙は、四月二十六日、投票が行われ、新人の成田誠氏(62)が、初当選を果たしました。
〔略歴〕 町経済課長

青森県町村長等名簿

平成27年7月1日現在
町村数30町村(22町8村)

町村		区分	町村長氏名	生年月日	当選回数	任期満了年月日	副町村長氏名
東郡	平内町		船橋茂久	S24. 7. 17	1	27. 11. 14	山田光昭
	今別町		阿部義治	S25. 9. 18	1	29. 10. 12	
	外ヶ浜町		森内勇	S13. 3. 2	3	29. 4. 23	沼田謙市
	蓬田村		久慈修一	S25. 8. 1	1	29. 11. 8	
西郡	鱒ヶ沢町		東條昭彦	S16. 4. 15	2	29. 12. 26	長内仁
	深浦町		吉田満	S28. 9. 9	2	28. 12. 20	菊池雄司
中郡	西目屋村		関和典	S42. 2. 24	3	30. 2. 25	
南郡	藤崎町		平田博幸	S32. 6. 2	1	27. 11. 19	
	大鰐町		山田年伸	S27. 3. 11	2	30. 7. 21	
	田舎館村		鈴木孝雄	S12. 2. 10	3	28. 11. 17	葛西幸男
北郡	板柳町		成田誠	S28. 3. 4	1	31. 4. 29	村上孝夫
	鶴田町		相川正光	S28. 10. 29	1	30. 8. 20	
	中泊町		小野俊逸	S17. 7. 29	5	29. 4. 23	秋元良一
上北郡	野辺地町		中谷純逸	S24. 8. 16	1	27. 10. 26	松山英樹
	七戸町		小又勉	S24. 1. 2	3	29. 4. 23	似鳥和彦
	六戸町		吉田豊	S25. 3. 28	6	28. 1. 27	保土澤正教
	横浜町		野坂充	S26. 1. 31	3	28. 12. 11	新渡喜広
	東北町		斗賀壽一	S19. 7. 2	2	29. 4. 23	蛭名敏治
	おいらせ町		三村正太郎	S24. 10. 7	5	30. 3. 25	柏崎源悦
下北郡	六ヶ所村		戸田衛	S22. 1. 28	1	30. 7. 6	橋本晋
	大間町		金澤満春	S25. 3. 9	3	29. 1. 18	菊池武利
	東通村		越善靖夫	S17. 1. 7	5	29. 4. 12	林春美
	風間浦村		飯田浩一	S35. 5. 5	2	31. 4. 25	
	佐井村		樋口秀視	S26. 4. 10	1	30. 4. 26	
三戸郡	三戸町		竹原義人	S25. 11. 28	2	28. 12. 15	藤村正彦
	五戸町		三浦正名	S29. 1. 1	5	31. 6. 26	鳥谷部禮三郎
	田子町		山本晴美	S39. 4. 10	1	28. 1. 14	原昌徳
	南部町		工藤祐直	S30. 5. 22	5	30. 2. 11	坂本勝二
	階上町		浜谷豊美	S31. 8. 23	3	29. 12. 23	沼沢範雄
新郷村		須藤良美	S15. 3. 29	3	29. 5. 28	横田孝夫	



本マグロにも負けない食材！

海に見える丘で育つ

「陸(おか)マグロ」(大間牛)で

さらなる地域活性化へ



マグロで有名な本州最北端の大間町には、マグロの大トロにも引けを取らない食材があります。その食材は、「大間の陸(おか)マグロ」と呼ばれています。気象条件が厳しく、また、歴史上重要な地域でもあるこの地で生産されている美味しい食材を紹介します。

「大間の陸(おか)マグロ」とは？

本州最北端の大間町にある標高二百メートルにも満たない西吹付山の大間牧場で肥育されている「大間牛」(黒毛和種)のことを「大間の陸(お



西吹山付近の大間牧場

か) マグロ」と呼びます。

その肉質は、大間で水揚げされる本マグロの大トロにも負けません。また、最高等級のA5に評価される肉も出ることもあり、過去には枝肉のチャンピオンにも選ばれています。

大間牛は現在、大間町繁殖育成センターで約三十頭肥育されています(他に種雄牛二頭、繁殖用雌牛四十五

頭)。年間十五頭ほど出荷されていて、枝肉はA3評価のものが多いです。また、一キログラム当たり千七百円程度で落札されています。

肥育に関しては、子牛のころに母牛と一緒に大間の強い



枝肉チャンピオン賞を受賞

潮風を浴びたミネラル分豊富な牧草を食べ、広い草場を歩き丈夫な体をつくっています。また、餌はトウモロコシ原料由来の濃厚飼料と大豆粕、良質な稲わら等、牛の体調や食欲に合わせて餌の量を調整しています。

陸（おか）マグロを食べる！

この大間牛ですが、大間町では「幻の大間牛」とも呼ばれています。その理由は、これまで市場に出回ることがなく、年二回のイベント時（五月の内山公園桜まつりと十一月の大間町産業祭）だけ



桜まつりでは大間牛をバーベキューで食べることができる



大間牛の販売が行われる産業まつり

でしか食べることができない希少な地産ブランド牛であるからです。平成二十六年の桜まつりではA5の肉が提供され、その値段は三百グラム千円（前売り・タレ付き）でした。平成二十六年の冬からは、町内にある「おおま温泉海峽保養センター」で大間牛を提供できるようになりました。メニューは大間牛すき焼き定食（千三百円）、宿泊コースだと「大間牛すき焼きコース（二万二千円）のほか、料金に応じてサイコロステーキを食べることが出来ます。大間マグロと陸（おか）マグロの共演を楽しむことができます。

また、出荷状況次第では大間牛を購入することもできます。（すき焼き用五百グラム三千円、焼肉用五百グラム二千円）今後、大間町内で常時販売、また飲食店で料理として提供できるように協議していく予定です。



おおま温泉海峽保養センターでは大間牛のすき焼きを提供開始

初めて牛肉を食べたのは大間町民？

江戸時代末期（千八百六十四年十月三十日）イギリス商船「アスマール号」が大間沖の弁天島で座礁しました。その時、大間漁師が大時化の中の懸命な救助活動の結果、乗組員十五名が無事救助されました。救助後、体力を消耗した乗組員達に魚や野菜を与えていましたが、体調を崩し



ビクトリア女王から御礼として贈られた金の懐中時計

たため乗組員は本国で食べていた牛肉を欲しがったそうです。当時、日本では四足動物を食することは禁じられていましたが、罰則を覚悟の上で農作業用として飼っていた牛を提供しました。この人道を優先した勇氣ある決断が後にビクトリア女王に伝わり、そのお礼として翌年六月に徳川幕府を通じて南部藩へ感謝状とともに金の懐中時計と銀銃が贈られました。これらは現在、岩手県盛岡市にある「もおか歴史文化会館」で保存されています。このことから青森県で牛肉を食べたのは大間が一番早かったとされています。

今後の展望

ブランド牛は、血統はもちろんのことですが、餌にも特徴があります。大間町にはコンブ等の豊かな海藻と奥戸いもっこ（三円いも）等の特産品があり、畑作にも適した環境が整っています。その豊かな資源を餌に混ぜて与え、大間ならではのブランド牛「大間の陸（おか）マグロ」を育成したいと考えています。

※「大間の陸（おか）マグロ」に関するお問い合わせは、大間町役場産業振興課までお願いします。【0175-1371211】





問い合わせ先 蓬田村役場 産業振興課
TEL 0174-27-2111

透明度の高い「玉松海水浴場」には毎年2万人近い人たちが訪れ、泳いだり、砂浜で遊んだり、キャンプをしたりと思いいいに楽しめます。

8月2日には「玉松海まつり」を開催し、宝探しゲームや、トマト早食い大会、ホタテの無料試食会など、大人も子どもも夢中になって楽しい一日を過ごすことができます。

玉松海水浴場で夏を満喫

いまが旬!
よもぎたむら
蓬田村

東津軽郡



問い合わせ先 ふかうらヤットセ実行委員会インナー事務局(深浦町観光課内)
TEL 0173-74-4412 (直通)

深浦を代表する「ゆかたと町民」をテーマに夕陽海岸と音楽のコラボレーションで非日常を満喫できる夏祭り。メインの「深浦小唄の総踊り」や、ゆかたコンテスト、浜辺LIVE、浜のフードコート、夕陽ビアガーデンなどイベント盛りだくさん。ファイナルは、夏の夜空を彩る「HANABI in this nature 深華」。約千発の花火が、深浦湾に打ち上げられる。

○期間：8月14日(金)～8月15日(土)

○場所：深浦町「夕陽公園」

浴衣を着る日
津軽風待ち湊ふかうらヤットセ

いまが旬!
ふかうらまち
深浦町

西津軽郡



問い合わせ先 田舎館村役場 企画観光課商工観光係
TEL 0172-58-2111 (内線242、243)

今年も田んぼアートが始まりました。第1田んぼアートは「風と共に去りぬ」、第2田んぼアートは「スター・ウォーズ/フォースの覚醒」がテーマです。皆さん、是非ご来場ください。

○会場：第1田んぼアート=田舎館村展望台(田舎館村役場6階)

第2田んぼアート=弥生の里展望所(道の駅いなかだて「弥生の里」敷地内)

○開館時間：10月12日まで(10月4日は弥生の里展望所のみ開館)
午前9時～午後5時(最終入館は午後4時30分)

※7月1日～8月31日は時間延長
午前8時30分～午後6時(最終入館は午後5時30分)

○入館料：各会場大人(中学生以上)200円、小人(小学生)100円
※未就学児及び障害者(障害者手帳等を提示時のみ)は無料、団体割引はありません。

今年の田んぼアートは新旧ハリウッド映画とのコラボレーション

いまが旬!
いなかだてむら
田舎館村

南津軽郡



問い合わせ先 東北町役場 商工観光課
TEL 0176-56-3111

東北町湖水まつりが7月25日(土)、26日(日)、東北町の小川原湖畔で開催されます。

25日の「わかさぎマラソン大会」では、全国から参加するランナーたちが、湖を望むコースを元気に駆け抜けます。同日夜に行われる「創作花火」は、見るものを音と光で幻想的な世界に導きます。その他、様々なイベントが行われます。

今年の夏は、楽しさに彩られた小川原湖に行ってみませんか?

小川原湖の夏を満喫しよう

いまが旬!
とくほくまき
東北町

上北郡

いまが旬!

佐井村

下北郡

佐井村の夏

『佐井村商工会夏祭り』

毎年8月15日に佐井村で行われている夏祭りです。会場では、ステージショーや盆踊り、花火の打ち上げ等が行われます。佐井村の夏祭りの特徴として挙げられるのが、間近で見られる花火の打ち上げです。間近で見られることから、花火による振動が体の芯に響き、とても迫力ある花火大会となっています。佐井村の夏を感じに、みなさん、是非お越しください。



問い合わせ先 佐井村商工会
TEL 0175-38-2270

いまが旬!

五戸町

三戸郡

5つの神話

五戸町特産のりんご「紅玉」をベースにアピオスやこうせんを原料に使用しているスイーツ、「5つの神話」。箱のデザインにもこだわりがあり、模様の一部には五戸町応援キャラクターのばおるくん・みらいちゃんがあしらわれています。中には6種類のお菓子が入っていてたくさん楽しめます。



問い合わせ先 菓子工房 三福 佐川菓子店
TEL 0178-62-3034 TEL 0178-62-2463

いまが旬!

田子町

三戸郡

第30回

たっこくんとイベントまつり

田子町二大特産物である「たっこにく」と「田子牛」を豪快に食べ尽くすイベント。中でも、「丸焼き」は圧巻。また、田子町は、世界のにんにくの首都とも称されるアメリカ・ギルロイ市と姉妹都市交流を深めており、会場には外国人の姿も多く見られ、国際色豊かなイベントとなっています。
○期間：10月3日（土）・4日（日）
○場所：創遊村229スキーランド周辺



問い合わせ先 田子町役場 産業振興課商工振興グループ
TEL 0179-20-7114

●お知らせとお願い

「あおり町村自治」は、会務活動状況及び災害共済諸事業の啓発事項、県市町村総合事務組合及び内部団体の活動状況のほか、町村長の紹介及び各町村の特集記事等を掲載し、3カ月に1回季刊発行しています。

本ページの「町村トピックス いまが旬!」は、各町村の時期、季節の旬の情報をPRするコーナーで、イベント、観光スポット、施設、特産品、町の話・出来事などが満載!

各町村で、本紙への掲載希望事項等がありましたらご連絡ください。また、表紙写真や関連記事等掲載依頼の際は、ご協力をよろしくお願いいたします。

● 共済契約できる自動車

1. あなたの所有する
2. あなたと同一世帯に属する親族（同居の親族）の所有する

- 自家用普通・小型乗用自動車
- 自家用軽四輪自動車
- 自動二輪車 ● 原動機付自転車

● 共済掛金と共済金額

共済金額	用途及び車種 区分	共済掛金額（年間）			
		自家用普通・小型乗用 小型貨物車(660cc超)	自家用軽四輪乗用 貨物車(660cc以下)	自動二輪車 (125cc超)	原動機付自転車 (125cc以下)
A 型	対人賠償 無制限	30,000円	19,000円	17,000円	12,000円
	対物賠償 1,000万円				
	自損事故傷害共済 1,500万円				
	限定搭乗者 500万円				
B 型	対人賠償 無制限	33,000円	21,000円	20,000円	14,000円
	対物賠償 無制限				
	自損事故傷害共済 1,500万円				
	限定搭乗者 1,000万円				

※無共済等自動車傷害共済・他者運転特約も自動付帯。 ※自賠責保険と共済金の一括払も実施しています。

町村生協の自動車共済にご加入の皆様なら！

町村生協の自動車共済にご加入の方のみ、車両共済(保険)に加入できます

- 町村生協の自動車共済で過去3年間無事故で、新たに車両共済(保険)に加入する場合、新規契約と比較して

42%割引（9等級）からスタート！

- 一括払いでご契約の場合は、さらに **5%割引！**
- 保険料分割払（12回）も選択可能です。
- ロードサービスも無料でサービス！

いつでもご加入いただけますので下記までお問い合わせ願います。

問合せ先 全国町村職員生活協同組合青森県支部
青森県町村会総務課〔共済事業〕 TEL017 (723) 1331



万一の事故に備えを！

自動車共済

総合賠償補償保険制度を説明

事務担当者研修会

本会は四月十七日、青森市の県共同ビルで総合賠償補償保険事務担当者研修会を開催した。出席者は県内市町村の担当者約三十名。

研修会では、はじめに本会の小笠原常務理事が「本保険制度の趣旨は、市町村が法律上の賠償金の支出による財政負担の軽減と、スムーズな賠償問題の解決により行政の円滑化に寄与することにある。今後とも本保険制度にご協力を賜りたい。」とあいさつした。

引き続き、本保険幹事会社の損保ジャパン日本興亜青森保険金サービス課の岡本特命課長からあいさつの後、全国町村会総合賠償補償保険の概要と事故処理について同社担当者から説明があった。担当



あいさつする岡本特命課長

者からは「賠償補償事案が年々複雑多様化し、賠償額も高額化の傾向にあり、住民の損害賠償請求の意識も変化している。市町村が所有又は管理する施設等において発生した事故で他人の財物・身体等を害し、所有者や占有者に法律上の責任が発生した場合、被害者に対する賠償義務が発生する。その賠償責任の過失割合に応じて賠償保険が対象となる。事故が発生した場合、速やかに青森サービスセンターか町村会へ連絡し、事案の早期解決を図っていただきたい。」などの説明があった。また、冬季に多く発生する事故・施設の屋根からの落雪や道路の穴凹事故などについて、事例を交えて紹介があった。

最後に、本会事務局が二十七年年度の更新加入事務と事故報告書の取扱い及び二十六年加入状況、支払い実績等を説明し、本保険制度に対する更なる理解と協力を求めた。

安い掛金で大きな補償を

●共済契約できる物件

- あなたの所有する居住用建物、または、その建物内にある動産
- あなたと同一世帯に属する親族が所有し、かつ、あなたが現に同居している建物または、その建物内にある動産

●共済掛金と共済金額

共済掛金（年額）は共済契約1口（10万円）につき60円です。

契約額の最高限度は、600口で、6,000万円が限度です。

共 済 契 約 の 最 高 限 度			
区 分	口 数	共済金額	共済掛金
建物のみの場合	400口	4,000万円	24,000円
動産のみの場合	200口	2,000万円	12,000円
建物と動産を併せた場合	600口	6,000万円	36,000円

風水雪害特約制度

風水雪害特約制度は、風水雪害による損害について、火災共済契約に任意に付加することにより共済金を支払う特約制度です。特約を付加していない場合、風災、水災又は雪災による損害は、損害額が50万円以上の場合、損害の程度に応じ給付され、全損の場合では100分の10又は450万円のいずれか低い額の給付ですが、特約に加入することにより、火災共済契約の風水雪害共済金に加算して風水雪害特約共済金を損害額の50%又は火災共済契約額の50%のいずれか少ない額を限度に支払います。（ただし、風水雪害共済金と特約共済金の支払合計額が3,000万円を超える場合、3,000万円が限度となります。）特約共済掛金は、一口10万円につき50円です。（火災共済契約と同額を特約共済金額とします。）



確かな安心を！

住宅火災共済



任意生命共済等について説明する杉山参事

本会は六月四日、青森市アップルパレス青森で災害共済関係係事業事務研修打合会を開催した。出席者は県内市町村及び一部事務組合等の担当者約百人。

はじめに本会の小笠原常務理事が「相互救済を原則としている共済事業の安定的な運営は、加入団体と加入者によって支えられているもので、事業の更なる充実強化とサービスの維持向上を図るためには、事務を担当されている皆様方の御理解と御協力が不可欠。今後も皆様方のご要望に応える事業としていきたい。」とあいさつした。

本会各共済事業を説明

災害共済関係係事業事務研修打合会

打合会では、車両共済並びに特定疾病保険の幹事会社である損保ジャパン日本興亜青森支社からの制度の説明に続き、全国町村会災害共済部庶務課の杉山参事から任意生命共済の入院給付金や手術給付金等の制度改正の説明と、契約内容に変更が生じた場合の手続きについて説明があったほか、特定疾病保険等について説明があった。

また、同部公有物件課の照井主事からは公有建物共済における豪雪や落雷による損害等に伴う共済金のおん補責任や、共済金請求に係る留意点をはじめ、加入要件など制度全般について説明等があり、両制度への更なる加入推進について協力要請があった。

また、事務局からは生協火災・自動車共済の七月継続更新事務をはじめ、本会の各共済事業の概要、公有・生協の自動車事故処理並びに共済金請求の際の事務等についての説明があった。

随想

第26話

新郷村合併六十周年を

迎えて

新郷村は青森県のほぼ南端に位置し、十和田国立公園への東口玄関として、またロマンあふれるキリストの里、青森県酪農発祥の地としても知られています。また、県内随一高い名山「戸来岳」がそびえる自然豊かなところであり、農林業を基幹産業とした農山村です。

我が村は昭和三十年七月二十九日に旧戸来村と旧野沢村が合併し、新郷村が誕生、

今年には節目の六十周年を迎えることになりました。古くは山林活用の木炭と雑穀生産の村でしたが、近年畜産を取り入れたり、ニンニク、ナガイモ、ダイコン等野菜の生産を展開、国や県の支援を得て有機資源センター、野菜集出荷予冷貯蔵所や長芋貯蔵所、大根洗浄施設等、次々に建設を進めてきました。この施設を活用した計画的な出荷により、今では県南有数の野菜生産地となり、農業就業率も高い村

となっております。

昨今、新郷村では急速な少子高齢化、過疎化というかつてない厳しい局面を迎えています。また、地域全体の生産意欲が減退したことによる農業所得の低下が続き、一時六千七百人だった人口も現在では二千七百人まで減少し、十年後には二千人を割ると予測されています。

今日も

で過疎・山村振興法等に基づき諸施策推進に努め一定の成果を得たものの、人口減少に歯止めがかからず、農家所得は減少の一途をたどっております。その結果、農地は荒れ、山は放置化、営農組織が崩壊し、先祖代々引き継がれてきた田畑は誰が守っていくのかと日増しに心



チャレンジデー2015

配や不安が募るばかりです。米増産運動時代の開田ブームに乗り、自力で荒木起こしをした住民たち、次男・三男対策問題で悩んだことが今では夢のように、あの活気にあふれていた農村がもう一度蘇ってきてほしいものです。

人口対策は地方にとって、深刻かつ重要な課題です。夢と希望を持てる、明るい農村の発展なくして、真に美しい日本の発展はなく、恵まれた山林や農地は国民の命と暮らしを守る貴重な資源であり、宝です。この宝を中山間地域に住む者がしっかりと守り、産業に自信と誇りを持てる農村となることを期待しています。そして、どこに住もうと、明るく豊かで幸せを感じる地域づくりに、行政と住民が一体となり、国の施策「地方創生」に向かって頑張っていかなければなりません。

我が村では、「新郷むらづくり実行委員会」を設立し、村民一体となり元気を取り戻そうと頑張っております。良質農産物生産のために、「有機の里づくり」、原木シイタケ栽培による「キノコの里づ

くり」を推進し、長寿の村を目指しています。また、村の特色を生かしての「木質バイオマス開発計画」も進めているところです。そのほかにも子育て支援として、学校給食無料化、村営学習塾の開設、保育料の半額助成、子ども商品券の配布、高齢者の方々に、温泉入浴券の配布や生活・集落活動支援を実施しております。そして、昨年より村への定住促進のための住宅建設を着々と進めており、生活に喜びをもてる施策の推進に努めているところです。また、村民が待ち望んでいた中山間地域総合整備事業による生活環境の整備も実施します。更には再生可能エネルギー「風力発電所」の誘致等を進め、村制施行六十周年を契機に、この厳しい環境の荒波を村民一体となり乗り越えて、素晴らしい故郷、夢と希望に輝く新郷村を目指してまいります。



完成が近い定住促進住宅

すとう
須藤

よし
良美

新郷村長



プロフィール

村助役、村参事。
現在3期目、75歳。